

令和3年度第5回南外地域協議会会議録

令和4年1月

南外地域協議会

令和3年度第5回南外地域協議会会議録目次

■開催方法	1
■開催日程	1
■開催場所	1
■出席委員（書面会議回答者）	1
■欠席委員（書面会議未回答者）	1
■案件	1
■送付資料	1
■提出された意見等	
1) 令和3年度地域枠予算対象事業の報告について	
➤ 【新規】檜岡城址等案内看板設置事業 行政主導型	2
2) 地域づくりに関する意見交換	
➤ 「彩色千輪プロジェクト」（地域拠点利活用活性化事業）にか かる意見調査の方法について	2
3) その他	3
■署名	4

令和3年度 第5回南外地域協議会 会議録

第5回南外地域協議会は、新型コロナウイルス感染防止への対策として、書面により開催し、委員から意見等を聴取しました。

■開催方法：委員へ会議資料を送付し、書面により意見等を聴取した。

■開催日程：令和4年1月26日（書面通知日）から
令和4年2月7日（意見書返信期限）まで

■開催場所：書面開催の為なし

■出席委員（書面会議回答者）：12名

伊藤君夫、伊藤直人、伊藤伝悦、伊藤まゆみ
風口宏子、木村ふみ子、佐々木久、佐藤喜八郎
佐藤正行、佐藤和香、相馬静華、高橋恵子

■欠席委員（書面会議未回答者）：4名

伊藤成幸、今野徹、高見正志、八嶋康晴

■案件：

1. 令和3年度地域枠予算対象事業の報告について
 - 【新規】檜岡城址等案内看板設置事業 行政主導型
2. 地域づくりに関する意見交換
 - 「彩色千輪プロジェクト」（地域拠点利活用活性化事業）にかかる意見調査の方法について
3. その他

■送付資料：

- 第5回南外地域協議会 次第
- 地域枠予算活用事業説明書（添付資料：標識案、看板設置位置図）
- 南外地域における彩色千輪プロジェクト 概要説明
- 南外地域「彩色千輪プロジェクト」事業計画等策定にかかる意見調査の方法及び調査のタイムスケジュールについて
- 意見書

■提出された意見等

<案件1>令和3年度地域枠予算対象事業の報告について

- 【新規】 檜岡城址等案内看板設置事業 行政主導型

○伊藤直人会長（以下「会長」と表記）

揚土橋の掛け替えにより、川口方向からの入り口が分かりづらく、檜岡城案内看板も変更が必要だったと思われるので、設置していただけることとなって良かった。

○伊藤伝悦委員

私自身、まだ行ったことがないので、雪が消えたら是非見学したいと思います。

○風口宏子委員

今回、インターネットで改めて檜岡城址のガイドブック（南外地域協議会発行）を拝見しましたが、大河ドラマを観るように人々の息吹を感じています。雪が溶けたら、ぜひ訪ねてみたいと思います。多くの人に知ってもらいたい所だと思っています。感謝申し上げます。

<案件2>地域づくりに関する意見交換

- 「彩色千輪プロジェクト」（地域拠点利活用活性化事業）にかかる意見調査の方法について

○会長

さいかい市、ふるさと館を拠点とした施設の今後の利活用について、地域の元気が衰える中で、この地域の現状に照了して、どんなメニューがあるのかを探り、その中から何を選ぶかにつけるように思います。

○伊藤君夫委員

終活

○伊藤伝悦委員

どんな意見や提案があるか楽しみです。

○伊藤まゆみ委員

地域の拠点として設定したが、若い人たちは正直なかなか足を運ばないのが実情である。小・中学生等も一緒に考え、参加していける機会を増やしていただく活動はとても親としても、ありがたい事だと思います。

○風口宏子委員

困りごとがある時など、安心して相談できる場所は、誰にとっても必要ではないかと思うのですが、なかなか状況が許さない場合もあると思います。「節度を持って人に寄り添うネットワーク」があるか、ないかは、地域の活性化と関わりがあるように思います。

○佐々木久委員

今後、南外において住みやすくするにはどうしたらよいか。

○佐藤喜八郎委員

- 今の3つある方向性を更に具体化しイメージしやすくして、それぞれの具体化したものを総合的に関係性を分析集約するなどによって、住民からの課題の解決活用が見えてくると思います。
- 「地域の活性化」とは、経済的かコミュニティか人流か定住か、よく認識しにくいのもっと具体的にサブ目標を示した方が良いと思います。
- 南外会の県外メンバーや、企業別のアンケートはいかかでしょうか。
- 南外中のプレゼンはどのような形で聴講できるのでしょうか。
- プロジェクト事業の効果の位置づけについて示してもらいたい。
- 「彩色千輪プロジェクト」事業は今後どのように発展・拡大推進していくのか示してもらいたいと思います。
- SDGsを意識した事業を盛り込んでほしいと思います。

○佐藤正行委員

地域の皆さんにアンケートする場合は、地域の拠点を具体的にして南外ふるさと館を活用した企画、民俗資料交流館を活かす方法等として意見をもらった方が良いと思う。(各施設で何ができるか等)

<案件3>その他

○風口宏子委員

地域のことについて、子どもの頃よりも知らないことが多いのではないかと申し訳なく思っています。子どもの頃はあちらこちらと巡って歩いて、今よりも人についても多く知っていたように思うのですが、長い間離れて暮らしていたため、忘れてしまっていることがほとんどです。ですが、父をはじめとして、この地で育んでいただいて今も過ごさせていただいていることに、本当に有難いと思っています。今後とも、よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

○佐々木久委員

いつもご苦労様です。何とか、住民を増やせないかと考えています。

○佐藤喜八郎委員

南外地域はもともと山間山村地で、囲まれた地域の中で住民が相互扶助によって多くのことを担ってきており、基本的地域圏としての範囲は必要十分だと思います。また、地域の自然を活用した歴史文化は数知れず、それを大事にし、失ってはなりません。

したがって、今までの先人が継続してきた生活に根付き役立つ文化文明の営みを精選して良いところ取りをし、それを地域の特徴として確立していくことが地財を活用したプロジェクトとして成り立ち、曳いてはSDGsにも繋がることでしょう。

また、今国会でも論じられている地方のIT活用を積極的に採用して、南外の「独立してコンパクト」な地域が閉鎖的孤立することなく、拡く繋がる山村として魅力を保つ地域になっていけたらと思います。そのためには、地域を愛し苦勞を厭わず献身的で企画・指導力に長けた人的発掘がすごく大事だと思います。それは地域に留まらず南外会や外部の賢者もターゲットにしてよいと考えます。人口が減少する南外のコミュニティ社会が成立継続するかどうかにかかっています。

南外地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員

